厚生労働行政推進調査事業費補助金 (循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業) 分担研究報告書

栄養・食生活に関する数値目標と施策の提案

研究分担者 村山伸子 新潟県立大学栄養学部・教授

研究要旨

次期健康づくり運動プラン策定・実施・評価に関して、学術的エビデンス・手法をもとに、行政上の課題の解決を目指す。令和6年度は、栄養・食生活分野の目標8項目(適正体重4項目、栄養素・食物・料理の摂取4項目)について、ロジックモデルのアウトプット、中間アウトカム指標について、指標の作成とその把握方法を提示した。また、自治体が実施することを想定したロジックモデルとアクションプラン(施策の案)について論文として発表、主に自治体関係者向けの研修をすることによる普及を実施した。

研究協力者

新保 みさ 長野県立大学

荒田 尚子 国立成育医療研究センター

成田 美紀 東京通信大学

吉池 信男 青森県立保健大学

林 芙美 女子栄養大学

赤松 利恵 お茶の水女子大学

A. 研究目的

厚生労働省により令和4年度に健康日本21(第三次)が策定され、令和6年度より実施されている。本研究は、次期国民健康づくりプランの策定・実施・評価に関して、学術的エビデンス・手法をもとに、行政上の課題の解決を目指す。具体的には、令和4年度は健康日本21(第三次)の栄養・食生活分野の目標項目と目標値の検討を行った。令和5年度~6年度は、自治体がPDCAを回して健康づくり関連事業の進捗評価を行い、事業を推進できるように支援することを目的とした。

令和6年度は、栄養・食生活分野の目標8項目(適正体重4項目、栄養素・食物・料理の摂取4項目)について、令和5年度に作成した自治体が実施することを想定したロジックモデルについて、アウトプット、中間アウトカムの具

体的な指標とその把握方法を提示すること、ロジック・モデル~アクションプラン~評価・推進について、3年間の研究成果を社会に還元することを行った。

B. 研究方法

ロジック・モデルにおけるアウトプットと中間アウトカムについて、具体的な指標とその把握方法を示す

今回ロジックモデルを作成した健康日本 21 (第三次)の目標項目は、栄養・食生活分野の中で、「個人の行動と健康状態の改善」に含まれる、適正体重の維持(子どもの肥満、成人の肥満、若い女性のやせ、低栄養傾向の高齢者の減少)、食塩の減少、野菜・果物の増加、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の増加とした。

アウトプットと中間アウトカム指標は、既存の自治体で用いられている指標、実現可能性がある指標を選定した。また、指標の把握方法についても、妥当性とともに実現可能性を重視して選定した。

ロジック・モデル~アクションプラン~評価・推進について、3年間の研究成果を社会に還元する

令和5年度に、日本健康教育学会環境づくり

研究会と連携して検討したロジックモデルとアクションプランについて、論文として発表し、本研究班主催の研修会(2024年10月4日)で報告した。

C. 研究結果

- ロジック・モデルにおけるアウトプットと中間アウトカムについて、具体的な指標とその把握方法を示す
- (1) 成人の肥満者割合の減少(図1) ロジック・モデルを図1-1に示す。

アウトプット指標とその把握方法(図 1-2)は、健診の受診率を保険者のデータから把握する、研修会の実施回数と参加者数を記録する、教育媒体の配布数を記録する。環境整備では、適正エネルギー量の食事を提供する店や給食施設の数、販売数等を記録するとともに、購入を促進するためのインセンティブを付与している店や施設数を把握する。

中間アウトカムカム指標とその把握方法(図 1-3)は、対象とする人の減量に対する態度、知識・スキルについては自治体の既存の調査や研修会時のアンケートで把握する。行動については、特定健診の問診票に肥満関連の項目があるため(早食い、就寝前の食事、間食、朝食欠食)活用できる。食環境介入のアウトカムとしては、アウトプット指標で把握した、適正なエネルギー量の加工食品、中食、外食、飲料の販売数の記録を収集することで把握する。

(2) 若年女性のやせの割合の減少(図2) ロジック・モデルを図2-1に示す。

アウトプット指標とその把握方法(図 2-2)は、保育所~大学で「若年女性のやせ」について、ボディイメージ教育を含めて、実施した回数、参加者数を把握する。40歳未満女性の健診受診率を把握する。広報媒体にボディイメージへの配慮をしている市町村数を把握する。環境整備では、自治体の食環境整備事業、給食施設への実施状況調査で、適正エネルギー量の食事

を提供している事業者数数を把握する。

中間アウトカムカム指標とその把握方法(図 2-3)は、対象とする人のボディイメージ、適正な食事、運動状況、筋肉量や骨量を、自治体、保育所、学校、職場での調査で把握する。

(3)低栄養傾向の高齢者の割合の減少(図3) ロジック・モデルを図3-1に示す。

アウトプット指標とその把握方法(図 3-2)は、介護予防・フレイル予防の取組の数、共食や外出の機会の提供数と参加者数を、自治体、社協、自治会、地域の食堂、事業者から把握する。適正なエネルギー、たんぱく質等の食事を提供する外食、食品小売り店、配食サービスの事業者数、および販売数を各事業者の情報提供により把握する。フレイル予防等に関わる人材数、通いの場を運営するシニアスタッフへのインセンティブを提供する自治体数、スタッフ数を自治体で把握する。

中間アウトカムカム指標とその把握方法(図 3-3)は、対象とする人の低栄養予防の知識、スキル、運動や口腔の健康状態については、介護予防の取組の中で聞き取りやアンケート等で把握する。食環境介入のアウトカムとしては、アウトプット指標で把握した、適正なエネルギー、栄養素の外食、弁当、配食サービスの販売数の記録を収集することで把握する。行動については、欠食しない者、多様な食品摂取をする者等を介護予防の取組の他、健診、自治体全体の調査の中に入れて把握する。

(4) 子どもの肥満者割合の減少(図4) ロジック・モデルを図4-1に示す。

アウトプット指標とその把握方法(図 4-2)は、市町村の母子保健事業、保育所・学校での食育、生活習慣指導、成長曲線の活用と指導、課外活動での身体活動の機会提供の実施有無、回数、参加者等を把握する。環境整備では、保育所・学校での栄養管理された給食の提供している施設数を把握、高脂質・砂糖・食塩の食品

(ファストフード、スナック菓子、甘味飲料等) のコマーシャルを見る機会を子どもや保護者へ の調査で把握する。

中間アウトカムカム指標とその把握方法(図 4-3)は、対象とする児の行動について、完全母乳栄養児の数を市町村の保健事業で把握する。幼児期のエネルギー密度の高い食品の摂取やスクリーンタイム、身体活動時間を、市町村の健診、保育所で把握する。学齢期の朝食欠食、エネルギー密度の高い食品の摂取頻度、スクリーンタイム、身体活動時間を、学校で把握する。

(5)食塩摂取量の減少(図5)

ロジック・モデルを図 5-1 に示す。

アウトプット指標とその把握方法(図 5-2) は、自治体、保育所・学校、事業所で実施する 減塩の研修会の実施回数、参加者数を把握する。 自治体が発信する Web サイト、SNS の発信回数 とアクセス数を記録する。飲食店、食品小売り 店、職場給食での食塩表示の実施店舗数を把握 する。健診で尿中 Na/K 測定、集会等で汁物等 の食塩濃度測定を実施した人数を把握する。自 治体のヘルシーメニュー等の登録制度を利用し、 基準に合った食塩相当量の食事選択へのインセ ンティブ付与、プロモーションを実施している 施設数を把握する。減塩の料理、弁当、総菜、 食品等を販売する店数、販売された数を記録し 把握する。特定給食施設指導で基準に合った食 塩相当量の給食提供をしている施設数を把握す る。

中間アウトカムカム指標とその把握方法(図5-3)は、対象とする人の減塩への関心、自信、知識、スキルについては自治体の既存の調査に入れることで把握する。家庭での減塩行動については、食推事業や健診時に家庭の汁物の食塩濃度測定をする。食環境介入のアウトカムとしては、アウトプット指標で把握した、減塩の加工食品、総菜、弁当、外食、給食を購入する人の人数(販売数)を把握する。

(6)野菜摂取量の増加(図6)

ロジック・モデルを図 6-1 に示す。

アウトプット指標とその把握方法(図 6-2)は、自治体が保育所・学校、職域、地域等における野菜に関する研修会の実施回数を把握する。自治体が発信する Web サイト、SNS の発信回数とアクセス数を記録する。自治体が、保育所・学校、職域、小売店等で野菜摂取に関する情報提供の実施施設数等を把握する。自治体が、保育所・学校での野菜栽培活動実施施設数を把握する。自治体の食環境整備事業の登録店舗で「野菜たっぷり」「手ごろな価格での販売」を選択した店数を把握。特定給食施設指導で野菜たっぷりの事業所数、学校数を把握する。

中間アウトカムカム指標とその把握方法(図 6-3)は、対象とする人の野菜摂取への関心、自信、知識、スキル、野菜摂取行動の質問を自治体の既存の調査、研修時のアンケートに入れて把握する。食環境介入のアウトカムとして、アウトプット指標で把握した食環境整備事業登録店、給食施設での「野菜たっぷり」メニューの販売数を把握する。

(7)果物摂取量の増加(図7)

ロジック・モデルを図 7-1 に示す。

アウトプット指標とその把握方法(図 7-2)は、自治体が保育所・学校、職域、地域等における果物に関する研修会の実施回数を把握する。自治体が発信する Web サイト、SNS の発信回数とアクセス数を記録する。自治体が、保育所・学校、職域、小売店等で果物摂取に関する情報提供の実施施設数等を把握する。自治体が、保育所・学校での果物収穫体験実施施設数を把握する。自治体内の飲食店、小売り店、弁当総菜店で果物、訳あり果物を販売する店の数を把握する。特定給食施設指導で果物を提供する事業所数、学校数、提供頻度を把握する。

中間アウトカムカム指標とその把握方法(図 7-3)は、対象とする人の対象とする人の果物摂取への関心、自信、知識、スキル、果物摂取行

動の質問を自治体、保育所、学校、職場での調査、研修時のアンケートに入れて把握する。食環境介入のアウトカムとして、スーパー等での果物の販売量を把握する。

(8) バランスの良い食事をとっている者の増加 (図8)

ロジック・モデルを図8-1に示す。

アウトプット指標とその把握方法(図 8-2)は、自治体が保育所・学校、職域、地域等における主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を推進する研修会の実施回数、参加者数を把握する。自治体が発信するWebサイト、SNSの発信回数とアクセス数を記録する。自治体が、保育所・学校、職域、小売店等で主食・主菜・副菜を組み合わせた食事に関する情報提供の実施施設数等を把握する。自治体の食環境整備事業で、飲食店、小売り店、弁当総菜店で主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を提供する店数を把握する。特定給食施設指導で主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を提供する施設数を把握する。

中間アウトカムカム指標とその把握方法(図8-3)は、対象とする人の主食・主菜・副菜を組み合わせた食事についての知識、スキル、関心、外食や中食での選択、調理頻度、1日3食食べる頻度、主食や野菜の摂取頻度の質問を自治体、保育所、学校、職場での調査、研修時のアンケートに入れて把握する。食環境介入のアウトカムとして、スーパーや飲食店、職場給食等での主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の購入量(販売量)を把握する。

ロジック・モデル~アクションプラン~評価・推進について、3年間の研究成果を社会に還元する

目標項目毎に研究協力者によって論文化し発表した $^{1)}$ $^{-7)}$ 。

2024年10月4日に行われた本研究班主催の オンライン研修会において、主に自治体の関係 者向けの研修会を実施し、800人以上の参加者 に伝えるとともに、資料をHPで公開することにより、より多くの人に普及した。内容は、食塩摂取量の減少を例に、ロジックモデル、アクションプランについて理解を深める目的で、理論とともに、具体的な自治体の事例をもとに解説した。

D. 考 察

- 1) ロジック・モデルにおけるアウトプットと 中間アウトカムについて、具体的な指標と その把握方法を示す
- ・アウトプット指標は、取組の実施回数や参加者数、媒体の配布数等、できるだけ住民への普及度がわかるような指標を作成する。その把握は、どこで誰がいつ把握するか計画的にすれば、予算等不要で実現可能なものは多い。
- ・中間アウトカム指標は、対象とする人の変化の指標であり、知識、態度、スキル、行動等があるが。これらを把握するためには対象者への調査をすることが必要となる。健康づくり担当部署が実施する調査だけでなく、他部署が実施する調査へ組み込む等の工夫が必要である。
- ・アウトプット、中間アウトカムが適切に把握 されることにより、次の改善につながる評価が 可能になると考える。
- 2) ロジック・モデル~アクションプラン~評価・推進について、3年間の研究成果を社会に環元する

3年間の研究成果については、ロジックモデルとアクションプランとは何か、どのように作成し、どのように活用するかについて、研究班全体の研修会の一環として実施した。

今後の課題

ロジックモデルについては、多くの自治体で、 様々な分野の計画に使用されており、今後は保 健分野の計画でも使用されていくと思われる。

健康増進計画は、多岐にわかるため、全ての 事業についてロジックモデルから事業を組み立 てることは難しい場合は、各分野の重点課題1 ~2つについて作成するとよい。その際に、重要な点は、事業(アウトプット)とアウトカムとの関連がわかるように事業を計画し、評価指標を設定することである。今後は実際の自治体の計画から事業、評価までの流れでこのロジックモデルを活用して、この手法の実行可能性と効果を検証することが必要である。

E. 結 論

健康日本 21 (第三次)の推進に向けて、令和 4年度、5年度は自治体におけるロジックモデルとアクションプランを作成した。令和6年度はロジックモデルを用いた評価体系について検討した。栄養・食生活分野の目標 8 項目(適正体重 4 項目、栄養素・食物・料理の摂取 4 項目)について、ロジックモデルのアウトプット、中間アウトカム指標について、指標の作成とその把握方法を提示した。また、自治体が実施することを想定したロジックモデルとアクションプラン(施策の案)について論文として発表、主に自治体関係者向けの研修をすることによる普及を実施した。

参考文献

- 1)新保みさ. 栄養・食生活分野のロジックモデルとアクションプランの例:成人の肥満者の割合減少. 日健教誌, 2024; 32(S): S8-S15
- 2) 荒田尚子. 栄養・食生活分野のロジックモデルとアクションプランの例:若年女性のやせの減少. 日健教誌, 2024; 32(S): S28-S34
- 3) 成田美紀, 清野 諭. 栄養・食生活分野のロジックモデルとアクションプランの例: 低栄養傾向高齢者の減少に向けて. 日健教誌, 2024; 32(S): S35-S42

- 4) 吉池信男. 国や地域レベルでの小児の肥満予防対策 -新たな視点とロジックモデルー. 日 健教誌, 2024; 32(S): S16-S27
- 5)村山伸子. 栄養・食生活対策のロジックモデルとアクションプランの例: 食塩摂取量の減少. 日健教誌, 2024; 32(S): S64-S74
- 6) 林 芙美. 栄養・食生活分野のロジックモデル とアクションプランの例:野菜・果物摂取量 の増加. 日健教誌, 2024; 32(S): S52-S63
- 7) 赤松利恵. 栄養・食生活分野のロジックモデルとアクションプランの例: バランスの良い食事を摂っている者の増加. 日健教誌, 2024; 32(S): S43-S51
- F. 健康危機情報 該当事項なし
- G. 研究発表
- 1. 論文発表
- 1) 村山伸子. 栄養・食生活対策のロジックモ デルとアクションプランの例: 食塩摂取量 の減少. 日健教誌, 2024; 32(S): S64-S74
- 2. 学会発表なし
- H. 知的財産権の出願・登録状況
- 1. 特許取得なし
- 2. 実用新案登録なし
- 3. その他 なし

日本健康教育学会誌. 32, Special_issue, 2024 図1-1 ロジックモデル <成人の肥満者の割合の減少> 新保みさ(長野県立大学)一部村山改変 アウトプット指 分野別 個別施策 中間アウトカム (実施主体別 施策の例) アウトカム 教育・啓発 ◎ 教育·啓発 ■ 環境整備 ·特定健診·保健指 玉 家庭でのエネ エネルギー摂 ①◎国民への普及啓発 成人の肥満者 ②好事例の収集・発信・表彰 ルギー摂取量 取量の ・食音イベント等の の割合の減少 実施数や参加人 の減少 減少 適切なエネルギー摂取量の食 都道府県・市町村 数 生活を実行するための知識・ス ①◎住民への普及啓発 ② ■特定健診・保健指導の実施率向 食に関する情報 キル・態度をもつ人の増加 上事業 提供のWEBサイト ③ ■適正エネルギー量の弁当・外食の の利用者数や冊子 食品、総菜、 認証事業 の配布数 ④好事例の収集・発信・表彰 弁当、外食か 環境整備 ・適正エネルギー量 らのエネル 保険者 (スマートミール含 ① ⑤特定健康診査・保健指導の実施 ギー摂取量の め)の弁当・外食 ② ■受診率・実施率向上の取組 減少 の認証登録店舗 団体 (保健医療福祉,農業,学術 ・適正エネルギー量 ①◎国民への普及啓発 (スマートミール含 歩数を増やす※ エネルギー消 ② ■スマートミール認証事業 め)の食事の販売 種類数、販売数、 費量の 民間企業 運動習慣者の割 利用者数 ①■スマートミール認証事業等の認証 増加 合を増やす※ 獲得·拡充 ※歩数・運動習慣者についてはそれぞれのロジックモデルを参照 ①◎社員への普及啓発 ② ■社食等でスマートミール等の導入・ 厚生労働行政推進調査事業費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 健康日本21(第二次)の 利用者増加のための取組(健康経営 総合的評価と次期健康づくり運動に向けた研究令和2年度総括・分担研究報告書(代表:辻一郎)をもとに改変 の推進)

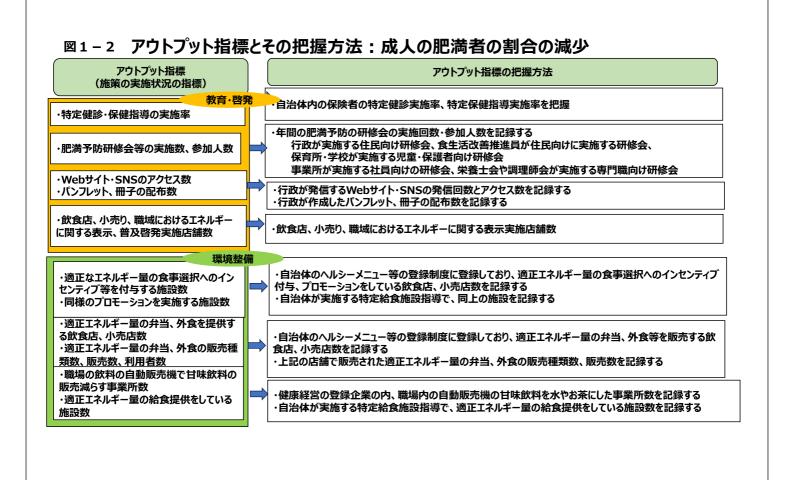
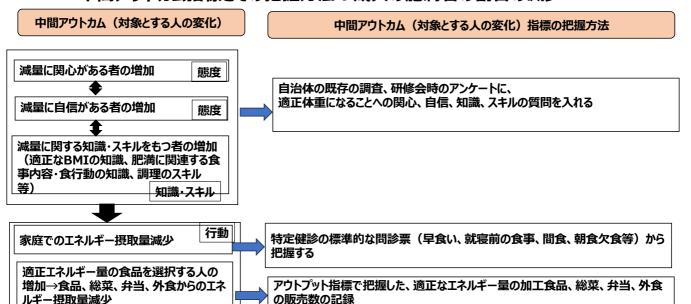


図1-3 中間アウトカム指標とその把握方法:成人の肥満者の割合の減少

職場の飲料でのエネルギー摂取量減少

給食でのエネルギー摂取量減少



職場の自動販売機での甘味飲料と水、お茶の売れた本数を把握、割合を比較

給食で適正なエネルギー量の食事の喫食数の記録

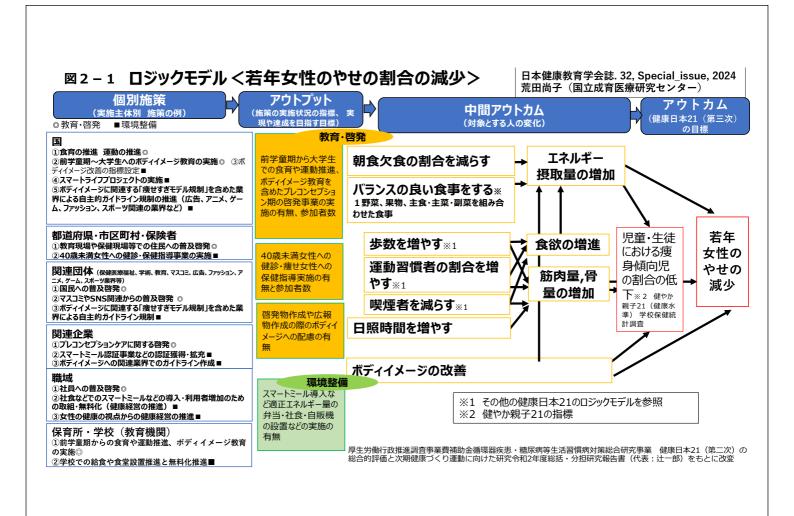


図2-2 アウトプット指標とその把握方法:若年女性のやせの割合の減少

アウトプット指標 (施策の実施状況の指標)

アウトプット指標の把握方法

教育・啓発

前学童期から大学生での食育や運動推進、ボディイメージ教育を含めたプレコンセプション期の啓発事業の実施の有無、参加者数

・自治体内の保育所、幼稚園、小中学校、高校、大学での「若年女性のや せ」予防に関する教育の実施回数、参加者数を調査し把握する。

40歳未満女性への健診・痩せ女性への保健指導実施の有無と参加者数

・自治体内の大学、職場、国保の健診において40歳未満女性の健診受診率 の把握。その中で痩せの女性の割合、保健指導実施率を把握する。

啓発物作成や広報物作成の際の ボディイメージへの配慮の有無

・市町村への調査で自治体で作成する啓発、広報媒体作成時に、ボディイメージへの配慮をしている市町村数を把握する。

環境整備

スマートミール導入など適正エネ ルギー量の弁当・社食・自販機の 設置などの実施の有無

- ・自治体の食環境整備事業に参加している飲食店、食品販売事業者(スーパー等)で適正エネルギー量の食事を提供している事業者数、メニュー数 を把握する。
- ・自治体の給食施設への実施状況調査により、適正エネルギー量の提供の 実施状況を把握する。

図2-3 中間アウトカム指標とその把握方法:若年女性のやせの割合の減少

中間アウトカム(対象とする人の変化)

バランスの良い食事をする※1野菜、果物、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事

エネルギー摂取量の増加

朝食欠食の割合を減らす

歩数を増やす※1

運動習慣者の割合を増やす※1

喫煙者を減らす※1

日照時間を増やす

食欲の増進

筋肉量,骨量の増加

ボディイメージの改善

中間アウトカム(対象とする人の変化)指標の把握方法

・自治体、保育所、学校、職場での調査で把握する。

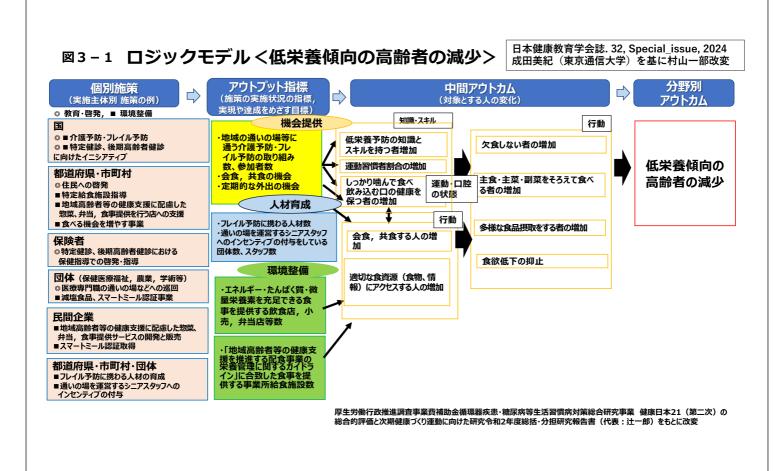
〇朝食摂取頻度、主食・主菜・副菜の摂取頻度、運動習慣、喫 煙有無、外で活動する時間、食欲、ボディイメージ:質問紙調査。

Oエネルギー摂取量:食事記録

〇歩数:歩数計

〇筋肉量·骨量:測定

*食環境整備については、バランスの良い食事の購入量で把握。



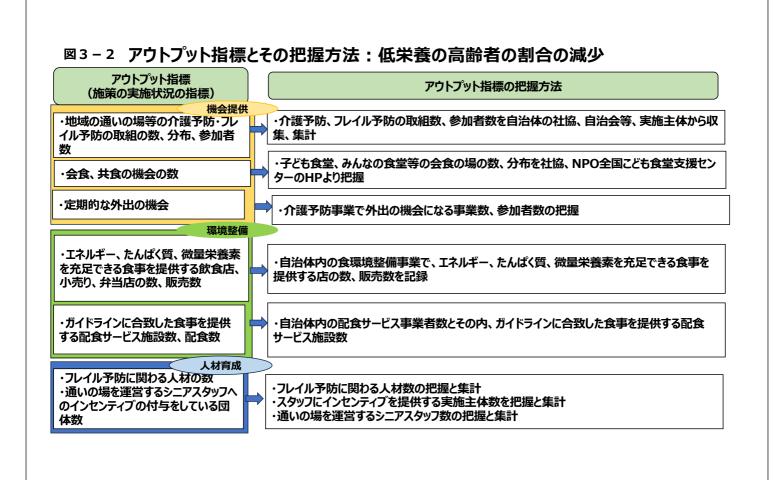
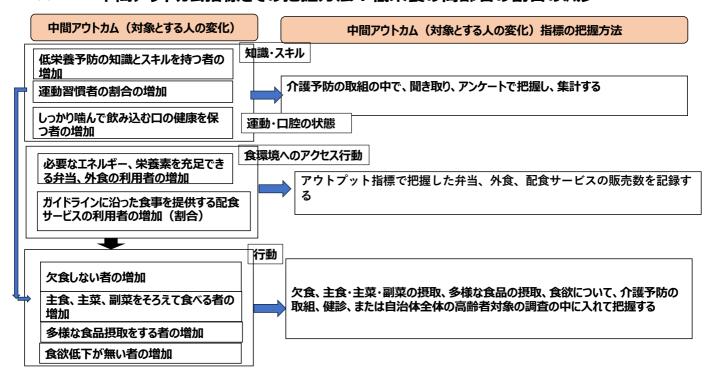


図3-3 中間アウトカム指標とその把握方法:低栄養の高齢者の割合の減少



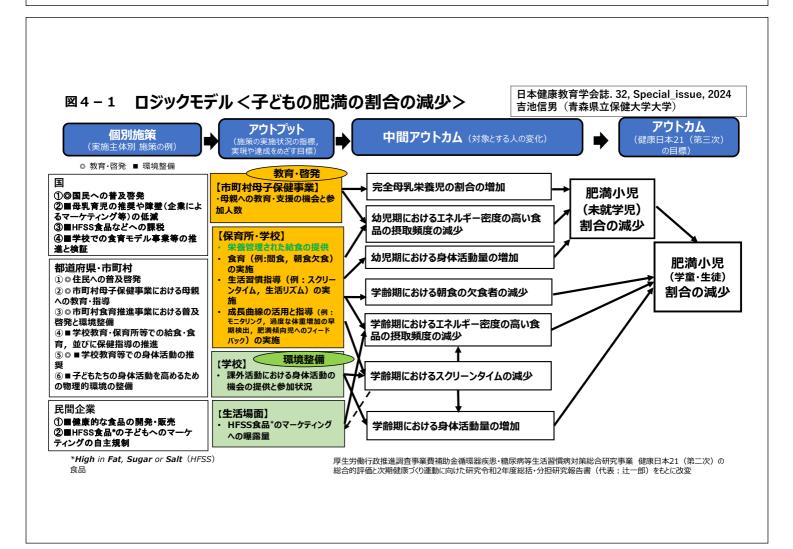


図4-2 アウトプット指標とその把握方法:子どもの肥満の割合の減少

アウトプット指標 (施策の実施状況の指標)

アウトプット指標の把握方法

1/1/1

【市町村母子保健事業】

・母親への教育・支援の機会と参加人数

【保育所·学校】

- ・食育(例:間食,朝食欠食)の実施
- 生活習慣指導(例:スクリーンタイム, 生活リズム)の実施
- 成長曲線の活用と指導(例:モニタリング, 過度な体重増加の早期検出,肥満傾向児への フィードバック)の実施

【学校】

・ 課外活動における身体活動の機会の 提供と参加状況 ・自治体内の母子保健事業で、肥満予防のための教育(母乳推進等)、肥満傾 向児の保護者への教育の機会の有無、回数、参加者数を調査し把握する。

- ・自治体内の保育所、学校で、肥満予防のための食育(間食、朝食欠食)、生活 習慣指導(スクリーンタイム、生活リズム)の実施をしている施設数、参加者数を 把握する。
- ・成長曲線を活用し、肥満傾向児へのフィードバックをしている施設数を把握する。
- ・自治体内の学校で、課外活動による身体活動の機会を提供している施設数、参加者数を把握する。

環境整備

【保育所·学校】

・ 栄養管理された給食の提供

【生活場面】

・ HFSS食品*のマーケティングへの曝 露量 ・自治体による保育所、学校の給食施設指導で、適切なエネルギーと栄養素の給 食が提供されている施設数を把握する。

・脂質、砂糖、食塩含有量が高い食品(ファストフード、スナック菓子、甘味飲料等)のコマーシャルを見る機会を、子どもや保護者への調査で把握する。

図4-3 中間アウトカム指標とその把握方法:子どもの肥満の割合の減少

中間アウトカム(対象とする人の変化)

中間アウトカム(対象とする人の変化)指標の把握方法

完全母乳栄養児の割合の増加

幼児期におけるエネルギー密度の高い 食品の摂取頻度の減少

幼児期における身体活動量の増加

・市町村の母子保健事業(乳幼児健診等)で完全母乳栄養児 の聞き取りをして把握する。

・市町村の3歳児健診、保育所で、ファストフード、スナック菓子、 甘味飲料等の摂取頻度、スクリーンタイムや活動時間を調査し把 握する。

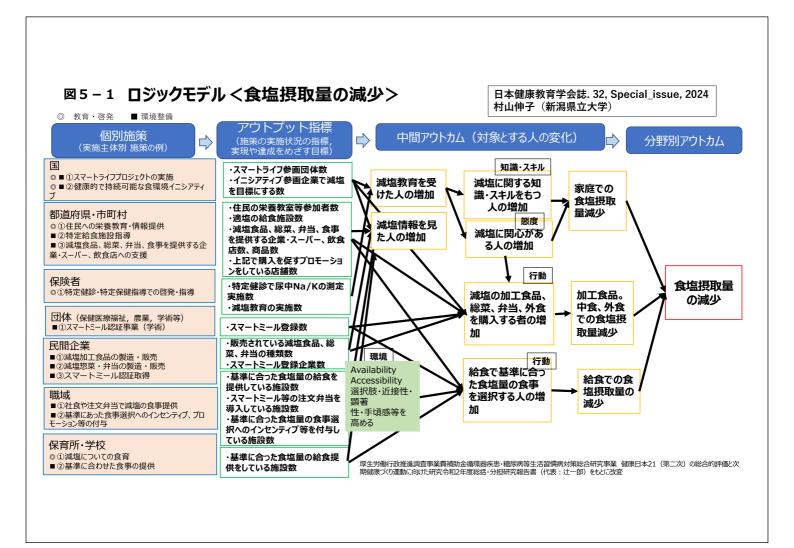
学齢期における朝食の欠食者の減少

学齢期におけるエネルギー密度の高い 食品の摂取頻度の減少

学齢期におけるスクリーンタイムの減少

学齢期における身体活動量の増加

・自治体内の学校で、朝食欠食頻度、ファストフード、スナック菓子、 甘味飲料等の摂取頻度、スクリーンタイムや活動時間を調査し把 握する。



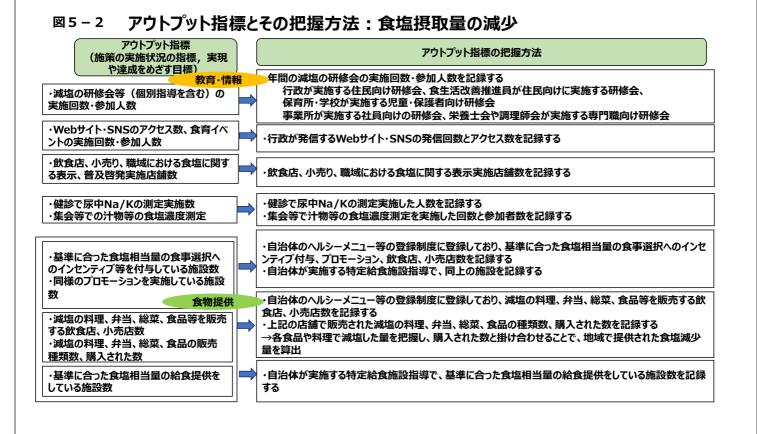
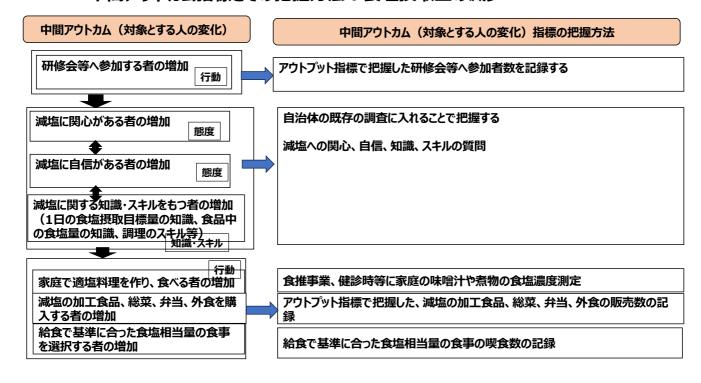


図5-3 中間アウトカム指標とその把握方法:食塩摂取量の減少



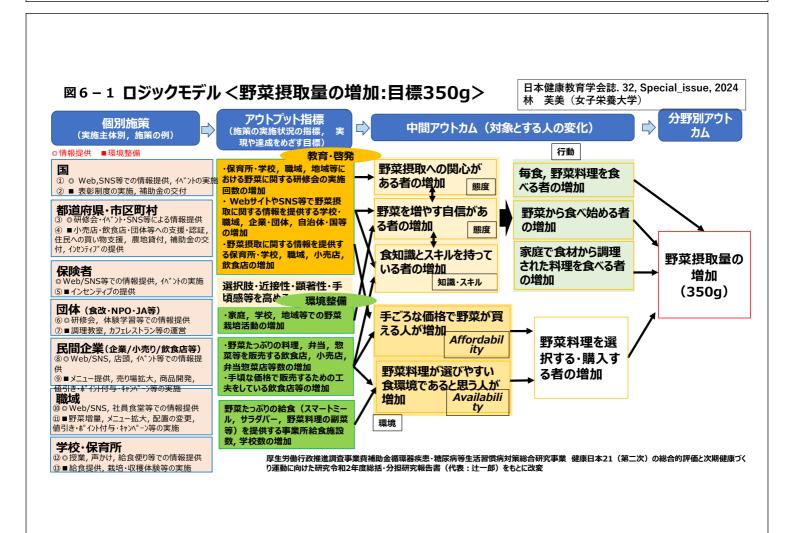


図6-2 アウトプット指標とその把握方法:野菜摂取量の増加

アウトプット指標 (施策の実施状況の指標)

- ・保育所・学校、職域、地域等における野菜に関する研修会の実施回数
- ・WebサイトやSNS等で野菜摂取に関する情報を提供する学校・職域,企業・団体,自治体・国等の増加
- ·野菜摂取に関する情報を提供する保育 所・学校、職域、小売店、飲食店の増加

環境整備

- ·家庭,学校,地域等での野菜栽培活動 の増加
- ・野菜たつぶりの料理, 弁当, 惣菜等を販売する飲食店, 小売店, 弁当惣菜店等数の増加
- ・手頃な価格で販売するための工夫をして いる飲食店等の増加

野菜たっぷりの給食(スマートミール, サラ ダバー, 野菜料理の副菜等)を提供する 事業所給食施設数, 学校数の増加

アウトプット指標の把握方法

・自治体が、各施設に実施回数の提供を依頼して集計する。 (各施設を取りまとめる団体に、評価委員会の委員になってもらい、実施状況の把握を依 頼することができるとなおよい)

- ・自治体が、各施設にWebサイト、SNSでの情報を提供しているか確認し、施設数を把握する。(情報提供した施設には、回数、アクセス数を提供してもらう)
- ・自治体が、各施設にパンフレット、掲示等で情報提供しているか確認し、施設数を把握する。 (パンフレットの場合は、種類数、配布数を把握できるとなおよい)
- ・自治体が、保育所、学校から野菜栽培活動の有無について把握し、集計する。
- ・自治体の食環境整備事業の登録店舗で「野菜たつぶり」を選択した店数を把握する。
- ・自治体の食環境整備事業の登録条件の1つに、「手ごろな価格での販売の工夫」を追加して、その項目を選択した店の数を把握する。
- ・特定給食施設の巡回指導や状況調査、施設からの情報提供で把握する。

図6-3 中間アウトカム指標とその把握方法:野菜摂取量の増加

中間アウトカム(対象とする人の変化)

中間アウトカム(対象とする人の変化)指標の把握方法

野菜摂取への関心がある者の増加 態度 野菜を増やす自信がある者の増加 態度 食知識とスキルを持っている者の増加 知識・スキル

自治体、保育所、学校、職場での調査、研修会時のアンケートに、野菜摂取への関心、自信、知識、スキルの質問を入れる

手ごろな価格で野菜が買える人が増 加

<u>加</u> 野菜料理が選びやすい食環境であると 思う人が増加

野菜料理を選択する・購入する者の増加

アウトプット指標で把握した食環境整備事業登録店、給食施設について、「野菜 たっぷり」メニューの販売数を提供してもらう

毎食, 野菜料理を食べる者の増加

野菜から食べ始める者の増加

家庭で食材から調理された料理を食べ る者の増加 行動

自治体、保育所、学校、職場での調査、研修会時のアンケートに、野菜摂取頻度、 調理の質問を入れる

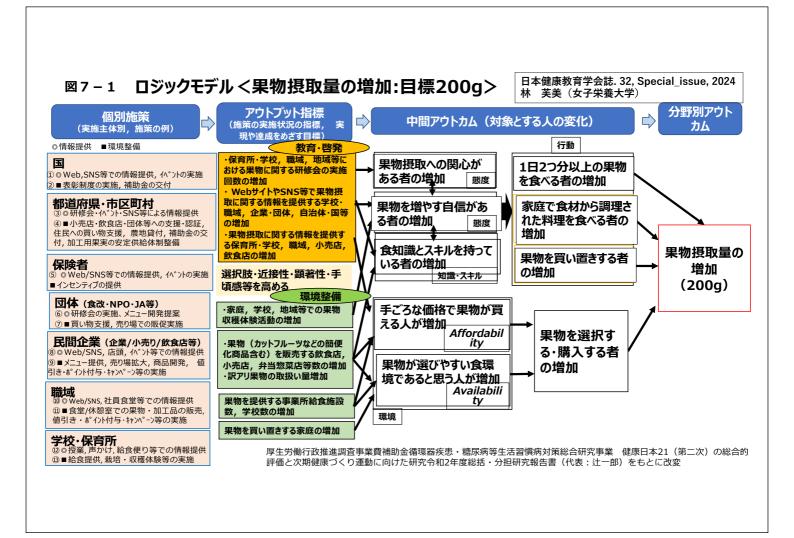


図7-2 アウトプット指標とその把握方法:果物摂取量の増加

アウトプット指標 (施策の実施状況の指標)

アウトプット指標の把握方法

教育·啓発

- ・保育所・学校, 職域, 地域等における果物に関する研修会の実施回数の増加
- ・WebサイトやSNS等で果物摂取に関する情報を提供する学校・職域,企業・団体,自治体・国等の増加
- ・果物摂取に関する情報を提供する保育所・ 学校,職域,小売店,飲食店の増加
- ·家庭,学校,地域等での果物収穫体験 活動の増加
- ・自治体内の保育、学校、職場、地域(食推事業)で、果物摂取を推進する 研修会、収穫体験の実施の有無、回数、参加者数を把握する。
- ・自治体で企画した果物摂取に関するWEBサイトのアクセス数、イベントの参加人数を把握する。
- ・自治体内の飲食店、食品販売(スーパー等)、職場で、果物摂取の啓発、 情報提供を行っている店数を把握する。
- ・保育所・学校等で果物の収穫体験を実施している施設数を把握する。

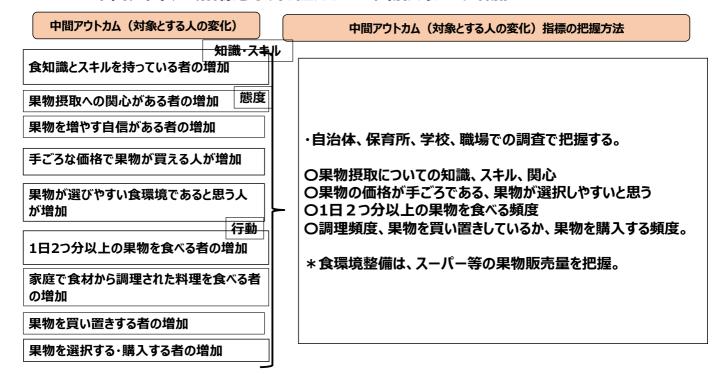
環境整備

- ・果物(カットフルーツなどの簡便化商品含む)を販売する飲食店, 小売店, 弁当惣菜店等数の増加
- ・訳アリ果物の取扱い量増加

果物を提供する事業所給食施設数,学校数の増加

- ・自治体内の飲食店、食品販売店(スーパー等)、弁当惣菜店で、果物、 カットフルーツ、訳あり果物を販売する店の数を把握する。
- ・自治体の特定給食施設指導で、果物を提供する事業所給食、学校数、提供頻度を把握する。

図7-3 中間アウトカム指標とその把握方法:果物摂取量の増加



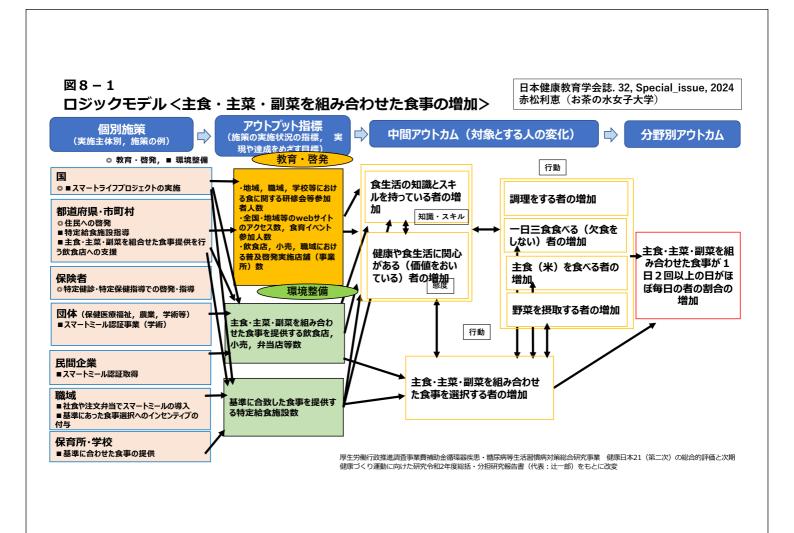


図8-2 アウトプット指標とその把握方法:主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の増加

アウトプット指標 (施策の実施状況の指標)

アウトプット指標の把握方法

教育·啓発

- ・地域,職域,学校等における食に関する研修会等参加者人数
 ・全国・地域等のwebサイトのアクセス数,食育イベント参加人数
 ・飲食店,小売,職域における普及啓発実施店舗(事業所)数
- ・自治体内の保育、学校、職場、地域(食推事業)で、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を推進する研修会の実施の有無、回数、参加者数を把握する。
- ・自治体で企画した主食・主菜・副菜を組み合わせた食事に関するWEBサイトのアクセス数、イベントの参加人数を把握する。
- ・自治体内の飲食店、食品販売(スーパー等)、職場で、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事に関する啓発、情報提供を行っている店数を把握する。

環谙整備

主食・主菜・副菜を組み合わせた 食事を提供する飲食店, 小売, 弁当店等数

基準に合致した食事を提供する特定給食施設数

- ・自治体の食環境整備事業で、飲食店、食品販売(スーパー等)、弁当店等で 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を提供する店数を把握する。
- ・自治体の特定給食施設指導で、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を提供する、または組み合わせを促進する取組をしている施設数を把握する。

図8-3 中間アウトカム指標とその把握方法:主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の増加

中間アウトカム(対象とする人の変化)

中間アウトカム(対象とする人の変化)指標の把握方法

食生活の知識とスキルを持っている者の 増加

態度

知識・スキル

健康や食生活に関心がある(価値をおいている)者の増加

調理をする者の増加

行動

一日三食食べる(欠食をしない)者の 増加

主食(米)を食べる者の増加

野菜を摂取する者の増加

主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を選択する者の増加

- ・自治体、保育所、学校、職場での調査で把握する。
- 〇主食・主菜・副菜をそろえた食事についての知識、スキル、関心、 外食や中食で主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を選択する頻 度
- 〇調理頻度、1日3食食べる頻度、主食を食べる頻度、野菜摂取 頻度。
- *食環境整備については、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の購入量で把握。